

「キッズデザイン賞」5年連続受賞 工務店が仕掛ける「**住みごちのいい家**」 「**住みごちのいい家～傍楽(はたらく)住まい～**」の2点が同時受賞 ～現代社会の住まい手が求める住まいを提案～

木造注文住宅を手がける株式会社アキュラホーム(本社:東京都新宿区、社長:宮沢俊哉)と日本最大級の工務店ネットワーク「ジャブネット」(主宰:宮沢俊哉)では、『住まい手が住まい手のためにできること・つくるもの』工務店が仕掛ける「住みごちのいい家」プロジェクト』、及び、「住みごちのいい家～傍楽(はたらく)住まい～」で、このたび「第9回キッズデザイン賞」(主催:特定非営利活動法人キッズデザイン協議会)を受賞いたしました。

＜住まい手が住まい手のためにできること・つくるもの＞

ー工務店が仕掛ける「住みごちのいい家」プロジェクト＞

本プロジェクトは、住まい手の「住みごち」を重視した家を作るために、オーナー様と女性有識者を組織化、委員会として発足し、子育てや家事等の経験から気づいた住まいに関する多様な要望や気付きを聞き、実際の住まいづくりに活かす活動です。この活動は単に住宅の質を向上させるだけでなく、コミュニティの持続や活性化など住まい手から住まい手へと住みごちのバトンを繋ぐプロジェクトとなっております。



＜住みごちのいい家～傍楽(はたらく)住まい～＞

これは、工務店が仕掛ける「住みごちのいい家」プロジェクトから生まれた住宅で、家族の暮らしをサポートするために、キッチンや収納などの約20箇所工夫している住宅です。家事・育児・仕事を両立する女性の体力とモチベーションを支える仕組みが必要と考え、子育てをしながら働く女性の声を元に開発しました。家族間のコミュニケーション誘発や子どもの自立・学習・生活習慣を手助けする仕掛け、忙しい主婦の家事を助ける仕掛け等を備えており、これにより1人で悩まない暮らし環境づくりを目指しています。



共働きの夫婦は年々増えており、現在は男性雇用者と無業の妻からなる世帯720万世帯に対し、約1,077万世帯が夫婦共に働いています(厚生労働省「平成26年度国民生活基礎調査」)。そのようななか、当社では忙しい夫婦が求める、子育てや家事を効率的にこなすことができ、さらに家族コミュニケーションが取りやすい住まいを提案していきます。

■ 受賞作品概要

- ① 受賞作品:『住まい手が住まい手のためにできること・つくるもの』
ー工務店が仕掛ける「住みごちのいい家」プロジェクト』
受賞部門: 子ども視点の安全安心デザイン 一般部門 コミュニケーションデザイン分野
※子どもを含めた一般向けの製品、施設、サービスにおいて、子どもが接触する可能性があるもので、安全に配慮されたもの。
- ② 受賞作品:「住みごちのいい家～傍楽(はたらく)住まい～」
受賞部門: 子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門 建築・空間デザイン分野
※主に子育ての当事者である親・個人(妊婦含む)が家庭で使用、利用し、安全かつ楽しく育児に取り組める工夫や心理的な負担や不安を軽減する工夫がなされたもの。

＜本件について報道関係からのお問い合わせ先＞

株式会社 アキュラホーム 広報課 堀越・西口 Email: aqua_pr@aqura.co.jp
住所: 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 34F TEL:03-6302-5010 (直通) FAX:03-5909-5570

●写真データは右記よりダウンロードすることができます。 <http://www.aqura.co.jp/news.html>

住まい手が住まい手のためにできること・つくるもの 工務店が仕掛ける「住みごこちのいい家」プロジェクト



不満のキーワードとそれぞれのコミュニティ Keyword of The Dissatisfaction & Each Community



Mission

「住みごこちのいい家」、「住みごこちのいい地域」創成・持続のためのしくみ

個々の住まい手が協力し、互いに補い合うこと。それは簡単なことのように、実はこの時代には、なかなか難しいことかも知れません。生活のスマート化が進み豊かになったと見える一方で、個が進み、顔を見ないでも簡単に誰かと繋がるのが容易に…。しかし私たちの営む生活行為はそうそう変わるものではありません。そしてその行為を軽視してはいけないのだと思うのです。このプロジェクトは身の回りの豊かさを創造・確認しながら、家・街・そして誰かの豊かさをために広がっていく。それが「住みごこちのいい家」「住みたい街」「住みごこちのいい地域」へと育っていくことを願っています。この経験・学びは子どもたちの将来に必ず力になるでしょう。そしてきっと子どもたちは更に良い形でそれを繋いでいってくれる。大人から子どもへ、住まい手から住まい手へ。住みごこちのバトンが繋がり価値が蓄積され周囲にも拡散されていく。その先に未来に繋がる住みごこちの真価があると考えます。

工務店が仕掛ける意義

工務店の特長の一つは地域に密着できること。私達はそこに長い時間をかけコミュニティを醸成してきました。大切にしてきたのは住まい手同士の「顔見知り」を沢山つくること。子どもたちが安全に、親たちが安心して街に暮らすための基本だから。そのために、人と人を繋ぐ仕掛けをしてきました。コミュニティで語られる住まい手の共通話題。それは日々の暮らし事。そこでは育児の悩み、子育ての苦労や知恵、どうしたら家事が効率よく成されるか、はたまた月々の光熱費の増減での一言一葉、家の使い勝手など暮らしの実態が語られていました。

そして、住まいの不満が話題になったある日、こんな会話が交わされていました。

「もっと早くそれを知っておけばよかったわ。些細なことって住んでから気づくのよね。」「そうそう、ほんとにそうなのよね。ほんと、もっと早く教えてあげられればよかったわ。」「コミュニティを創っていく事から「コミュニティから住まいを発信していく。」へ…。こうして工務店の新しいチャレンジが始まりました。

System

- 住まい手が家の建築後に感じる些細な暮らしの不満＝住みにくさを感じる部分、そこに潜む因果関係と不満のキーワードを視察、発見。
- これまでに培ってきた地域コミュニティの中に、住まい手とその仲間が住まいと暮らしを考える「委員会」＝名称を「住みごこちのいい家委員会」を組織化。委員会は全国8グループ(拠点)で、地域性を持ち合わせた意見が聴ける事がポイント。※女性と子どもなら誰でも参加可能。
- キーワードに基づき集まった委員会の中で、体験談やノウハウを披露してもらい当社へフィードバックされるシステム。
- 委員会での意見は専門の有識者や我々作り手の目録でも昇華され、住宅の基本仕様などに採用したり、ノウハウ集として次の住まい手たちのために開示される。
- この委員会はノウハウを享受した住まい手が循環的に参画できるしくみづくりをしており、享受したノウハウが活かされた住まいへの感想や、新たに不満の種になりそうな暮らしの困りごとなどを伝えるなど、常に次の住まい手が「さらに住みごこちのいい家、暮らし」についての情報が加えられる。
- 委員会に参加している住まい手たちには「住まいのお手入れ講座」や「季節のパーティー」「各種ワークショップ」など今の暮らしを更に豊かにするイベントやノウハウを通じて、「住みごこちのいい地域」を感じてもらえるための開いた地域コミュニティを工務店が仕掛け、牽引する。



住みごこちのいい委員会の意見がカタチになった住まいの暮らしアイデア

住みごこちのいい家～傍楽（はたらく）住まい

Hataraku Sumai

子育てをしながら働く女性を含む
住まい手の声を集める事から
プロジェクトをスタートさせました。

子育て、家事、そして仕事の3つを抱えてがんばっている主婦が家が手伝う、それが基本コンセプト。暮らす方の声を伺い「住みごこちのいい家委員会」で話し合い、その声を基本としてプロジェクトをスタートさせました。
※1

そこで暮らす人に、なにが本当に
住みごこちのいい家になるのか
じっくり考えて作りました。

ご家庭によって生活スタイルや価値観、問題点は様々です。何が本当にいいのか、答えはひとつではありません。多くのニーズをじっくりと検討し暮らしやすいアイデアにあふれた家になっています。

だから、この場所は、家中全部に
アイデアが満ちあふれ、また、そこから
別のいいねが繋がっていきます。

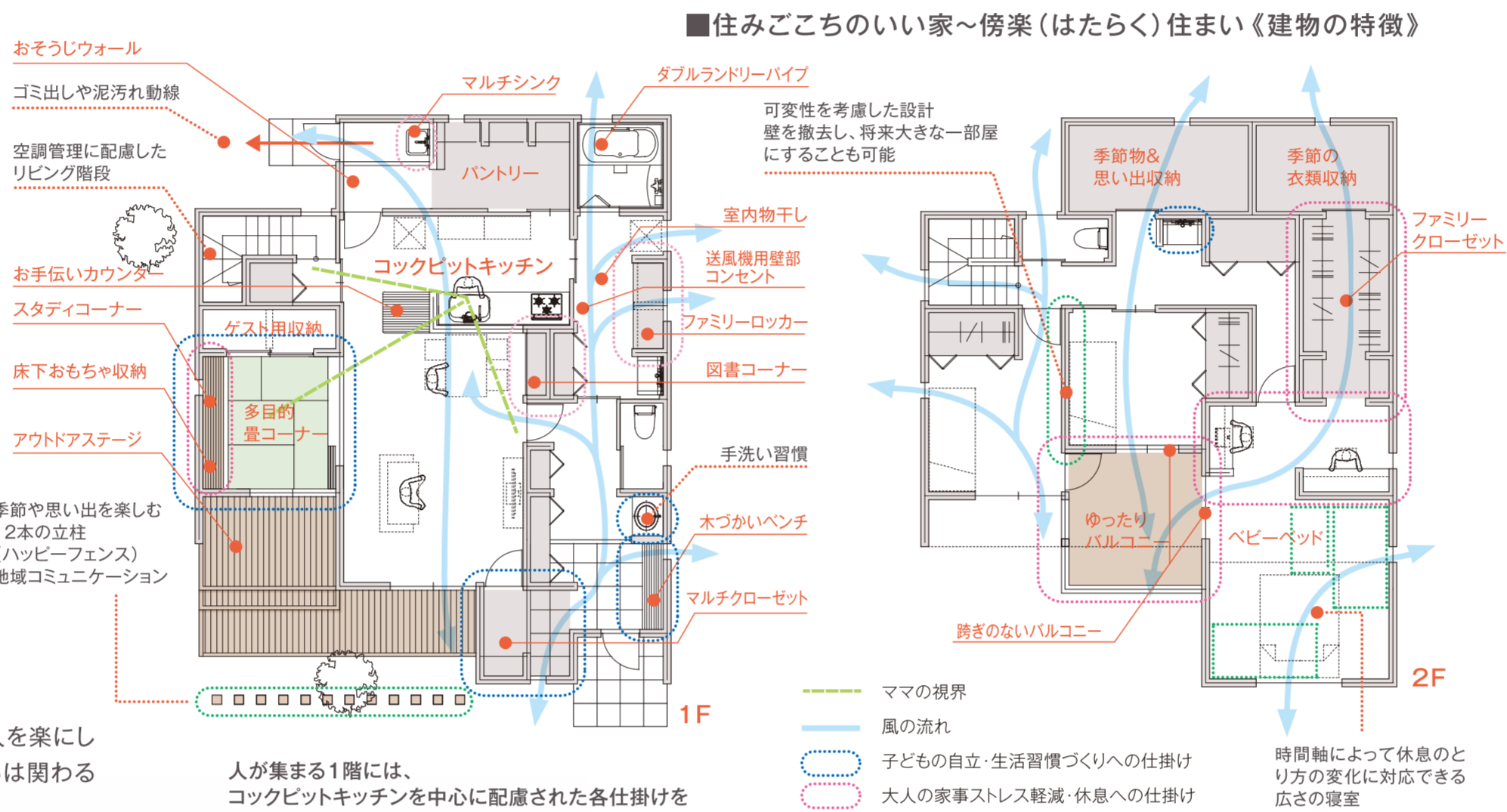
アイデアにあふれる「傍楽住まい」は、暮らしを楽しめるとともに、快適な空間を生み、そして子どもの成長を促してくれる住まい。家族とともに成長し、さらにはご近所や地域のコミュニティづくりを支えます。



12本の柱（ハッピーフェンス）は、外に向けた季節ごとのしつらえとして使うことで通りすがりのご近所さんとの会話のきっかけになり、温かなコミュニケーションが生まれます。

傍楽[hataraku]

家族の暮らしを家がサポートする、そんな、暮らす人を楽にしてくれるのが「傍楽（はたらく）」住まい。この住まいは関わるすべての方々に楽しさをお届けします。



●ファミリーロッカー
洗濯した衣類の一時干しをしたり、タオルやパジャマなどを家族別にたっぷり収納できる、リネン庫として活躍します。



●コックピットキッチン
家事をしながら子どもの片づけをしっかりと促す事ができるカウンターや学校からのプリント、宿題用の文具などが収納できる図書コーナーを併設しています。



●うがい・手洗い習慣コーナー
子どもの手洗い習慣が自然とつきます。玄関のベンチは買物の荷物を置いたり靴を履いたり、学校の家庭訪問時の対応に役立ちます。



●コックピットキッチンから見える 多目的 畳コーナー

スタディーコーナー、子どもの遊び・休憩・ゲスト用等多目的に使用可能。キッチンやリビングから見通すことができ家族のつながりを感じられます。また、カウンターの下の床は取り外す事ができ、いざという時の収納空間に早変わりします。



傍楽（はたらく）住まいってどんな家…？

Spec (仕様)
■1階床面積/77.84㎡(23.55坪) ■2階床面積/73.89㎡(22.35坪) ■TOTAL/151.73㎡(45.90坪) ■長期優良住宅 ■オール電化 ■太陽光発電システム10.71kW搭載 ■通風設計 ■H2400通風欄付きオリジナル建具



家族のコミュニケーション、地域のコミュニティをつくる住まい。

住まい手の声を活かされた家…

「住みごこちのいい家委員会」から住まい手の声を集め、女性スタッフのアイデアを加えて毎日が傍楽になる家を目指しました。
※1
●家族間のコミュニケーションが誘発される間取り●幼少期から学童期の子どもの自立を促進する仕掛け(ファミリーロッカー)●学習・生活習慣を助ける配慮(片づけ、うがい手洗いなど)●作業時間の長いキッチンに居ても子供の様子が見守れる視界(コックピットキッチン)●夕飯の準備で忙しいダイニングとは別に宿題を出来る場所を確保(スタディーコーナー)●家事負担を軽減できる仕掛け(効率の良い家事動線、衣類の集中管理、跳ぎのバルコニーなど)●人が来てても慌てないでむすキレイがキープできる収納の工夫(造材適所収納、おもちゃなどの一時避難場所など)●どこに何を仕舞ったか?を忘れない見える収納。でもいざという時に隠せる収納(図書コーナーは扉無しロールスクリーン仕様)●雨の続く日も沢山の洗濯物を見苦しくなく干せる工夫。(たっぷり干せる浴室物干しパー2倍、天井埋め込み型室内物干し、送風機用壁上部コンセント装備)●忙しい朝に混み合う洗面所争奪問題に備えたい(広々2坪洗面所、2Fにサブ洗面器)●子どものお節句用品や思い出の品を取っておきたい(下屋空間収納)●もしもの時の備えに10日～2週間くらいの食料や生活用品はストックしておきたい(広々バントリー、下屋空間収納)●忙しいときにササッと掃除ができる用具の専用場所があれば、ながら掃除がしやすい(お掃除ウォール)●休息はしっかりとりたいし、小さくてもいいので誰にも邪魔されない場所が欲しい(多様なベッド配置が可能な主寝室、夫婦別趣味空間)

PLUS

地域のコミュニティ…

工務店が仕掛人となり、住まい手や地域に暮らす人々を繋げる活動を広く提供します。顔見知りの地域環境の中で安全安心に暮らせる心地よいコミュニティが暮らしを支えます。
●コミュニケーションイベント等を通じて傍楽環境を整備する活動を工務店が下支え。ラクガキイベントや季節のパーティー、各種ワークショップなど開催、SNSなどで情報発信。子育ての悩みや家事の悩みを抱えこまずに似たもの通して話せる場づくり●植樹祭や木育出前講座など未来の環境を子どもと創る活動●夏祭りや餅つき大会など日本の伝統行事を工務店が中心となって住まい手と共有します。



この家は、まわりの人たちも幸せにしていける住まいです。



※1「住みごこちのいい家委員会」とは…
アキュラホームでは女性の住まい手や女性有識者を組織化し、住まいの要望、成功談、失敗談を聞き住まい手に活かす「住みごこちのいい家委員会」という名称の委員会を発足しています。

過去6 作品がキッズデザイン賞を受賞

— 2014 年度 —

・ 「MOKU MOKU プロジェクト」

～子どもの産み育て支援デザイン 地域・社会部門～

暮らしを応援してくれる仲間（＝暮らしサポーター）の協力のもと、建築現場やモデルハウスを利用して家族・地域のコミュニケーションを育むプロジェクトです。建築現場から生まれたコミュニティを新たな繋がりとして定着させ、地域の豊かな暮らしを応援します。



— 2013 年度 —

・ 「永代家守りプロジェクト」

～未来を担う消費者デザイン部門～

家守りを通じ、住まいのつくり手が住環境の維持管理に関する様々なノウハウを提供し、子どもたちを含めた住まい手が「知る→学ぶ→担う→保つ→伝える」というバトンプログラムを実践する。



※「永代家守りプロジェクト」職人さんと子どもたちが一緒に椅子づくりを体験

・ 「らくがキッズコミュニケーション」

～子どもの未来デザイン 感性・創造性部門～

ある条件下（建替え、維持管理上発生する壁紙の修繕時など）のモデルハウスを活用して、子どもたちに落書きを楽しんでもらう。創造的な行為に取り組むことを促し、自由な表現とコミュニケーションの場とする。

— 2012 年度 —

・ 「井戸堀り大作戦～ガチャポンを現代に」

～子どもの未来デザイン リテラシー部門受賞～

子どもたちへは、井戸から出る地下水を通して自然界での水の循環を相關的に考え、豊かな自然環境を未来へと繋いでゆく大切さを啓発する。また、井戸を実際に使ってみることで物理的な原理や道具の有要性を学び、子どもたちのイメージーションを刺激する。



※家族で井戸を体験

— 2011 年度 —

・ 「しあわせデザインプロジェクト」

～フューチャーアクション部門受賞～

子どもたちを産み育てやすい環境街づくりを目指したプロジェクト。住宅新築時に家庭と近隣とのコミュニケーションが誘発・醸成されるようなシカケ＝しあわせの種蒔きを施し、継続的に住まい手の成長をサポートする。



※「しあわせデザインプロジェクト」入居を記念して『ハッピープレート』を作成

・ 「木望（きぼう）の未来プロジェクト」

～フューチャーアクション部門受賞～

木育を通して「木の素晴らしさ」「物の大切さ」「物づくりの楽しさ」を、次代を担う子どもたちに伝えていくための活動。間伐材を使用した学習用機の天板を小学校に寄贈し交換する活動と、出張授業「ふれあい授業」を通じて、森林の大切さや間伐の必要性などを伝え、環境への意識を高める。

キッズデザイン賞は、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」というキッズデザインのミッションを実現し、普及するための顕彰制度です。乳幼児用品や玩具などの子ども向けの製品・サービスに限らず、大人向けのものでも、子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動などを幅広く募集します。受賞作品には、「キッズデザインマーク」の使用が認められます。NPO キッズデザイン協議会が主催しています。

※キッズデザイン協議会公式サイト：<http://www.kidsdesignaward.jp/2015/>